

スヌーズレンを利用した活動 ひかる絵本・紙芝居を楽しもう

Activity（作業）を体験して、心も体も元気に

3 すべての人に
健康と福祉を



4 質の高い教育を
みんなに



キーワード

SDGs・地域貢献・スヌーズレン・ひかる絵本・

〇取り組んだきっかけ

スヌーズレンとは？オランダ語の「くんくんにおいをかぐ」という意味のスヌッフレンと、「うとうとする」という意味のドースレンという2つの言葉からできた造語です。部屋に音や香り、幻想的な光を取り入れたリラックスできる環境を作り、五感を同時に刺激します。現在、教育・医療・福祉等の分野で取り入れられています。ヨーロッパでは社会生活の中で当たり前に取り入れられています。日本ではまだまだ聞きなれない活動の一つです。

〇活動の目的

このスヌーズレンの考え方を啓発すること、さらに発展させSDGsに貢献出来ると考え、『大学交流フェスタ』では「誰でも楽しめるActivity（作業）を体験して、心も体も元気にしよう」をテーマに、『浜松市と大学との連携事業～大学生の講座』では「ひかる絵本・紙芝居を楽しもう」をテーマに参加させて頂きました。

〇具体的な内容

スヌーズレンでは暗くなる空間が必要のため、大学交流フェスタでは、イオンモール浜松志都呂の展示スペースに簡易テントを張って、大学生の講座は亀玉交流センターをお借りして行いました。ひかる絵本、ひかる紙芝居を主として子どもたちをいつもと違う世界に引き込むように工夫しました。

協働センターでは兄弟、保護者あわせて24名が参加して頂きました。見知らぬ子どもたち同士ということもあって周りの様子をうかがいながらの始まりでしたが、始めの会、自己紹介、体操と進め次第に緊張感がなくなりました。

そこから暗くして、3つのグループに分かれ、それぞれに学生が絵本を読み聞かせていきました。休憩の後、ステージで大きなひかる紙芝居、子どもたち参加のひかるパネルシアター、終わりの会では12月にあわせ、サンクロース、トナカイの登場の演出などを入れて楽しく会を盛り上げました。

車椅子のお子さんも参加して頂き、参加場所の配慮や個別的な対応（声かけ）を心掛けました。



教員名 遠藤浩之

保健医療学部・作業療法学科

職位 准教授



連携先:

浜松市 市民協働センター

静岡文化芸術大学、浜松医科大学、浜松学院大学

イオンモール浜松志都呂